

平成30年度奈良県営水道事業懇談会開催概要

1 懇談会の日時及び場所

平成31年3月18（月）午後2時00分～午後3時30分 ホテルリガーレ春日野

2 出席者等

（1）懇談会出席委員

中室 克彦 氏（摂南大学名誉教授）（座長代理）
勝又 努 氏（大和郡山市上下水道部長）
高良 光江 氏（市民生活協同組合ならコープ常任理事）
戸谷 裕之 氏（大阪産業大学経済学部教授）（座長）
中川 辰也 氏（川西町事業課長）
藤平 眞紀子 氏（奈良女子大学研究院生活環境科学系准教授）
松尾 貴巳 氏（神戸大学大学院経営学研究科教授）
森山 賀文 氏（奈良県議会議員）
山中 益敏 氏（奈良県議会議員）

（2）事務局

奈良県水道局長、奈良県水道局次長、奈良県水道局総務課長
奈良県地域振興部地域政策課長 他

3 懇談会議題

- （1）奈良県水道事業経営戦略の策定について
- （2）その他

※ 奈良県営水道の経営分析、新県域水道ビジョンの概要、民間連携等について説明した上で、奈良県水道事業経営戦略を策定するにあたり、取組方針等について、各委員より意見をいただいた。

4 主な意見等

（1）施設・管路の更新及び耐震化について

- ・老朽化比率が高く、減価償却比率も高い状況である。県営水道と市町村水道の一体化を進めるにあたり、奈良県全体としての老朽化を見るのではなく、県が直接管理している施設の老朽化と、市町村が管理している施設の老朽化を分けて認識すべき。
- ・管路の耐震化については、県と市町村の管路では、口径や材質、用途などの違いがあり、正確な分類分けをし、それぞれの対応方針を示すべき。
- ・管路耐震化比率の指標も重要であり、現状分析に提示すべき。

(2) 官民連携について

- ・官民連携では、連携がとれる県内業者が多いと良いのだが。

(3) 職員の高齢化対策及び技術継承について

- ・職員の高齢化は水道だけの課題ではないが、対策・対応を考えていかなければならない。
- ・技術継承についても、一朝一夕には難しいが、人員不足については、例えば3年程度の単位で職員の人材育成が可能なシステムの構築を考えていくとともに民間人材の調査も重要である。

(4) その他

- ・「経常収支比率」については、地方公共団体の一般会計と公営企業において指標の求め方と意味が異なるため、一般の方に誤解を与えないように説明が必要である。
- ・システム統合は、会社が異なるとか、仕様が異なるなどの課題が多く一時的に相当な費用がかかるが、それでも効率が良いという相対的なプラス面があるならば、しっかりと説明して納得してもらわないといけない。
- ・簡易水道については、かなり厳しい状況であるため、県としての責務を明確にして、指導や支援的な役割を果たしていただきたい。